

ベラルーシ公開情報取りまとめ

(10月19日～10月25日)

2021年11月16日
在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

- EUが移民を巡る状況により新しい制裁を導入すると発表(10/22)
- 約60人の移民がベラルーシ・ポーランド間国境の突破を試みる(10/24)

【ルカシェンコ大統領動静】

●新型コロナウイルス感染状況及び対策にかかる会合の実施(10/19)

19日、新型コロナウイルス感染の感染状況及び拡大対策に関する会合を実施した。ルカシェンコ大統領は都市及び公共交通機関でのマスク着用に対する厳格な規制に憤慨し、罰金の恐れがあった公共の場でのマスク着用の義務化を廃止するよう命じた。同規制が実施されたのは13日であった。

(10/19 大統領府)

●新憲法の草案作成に関する作業部会との会合の実施

21日、新憲法の草案作成に関する作業部会との会談を実施した。「我々が国家を維持したいと望むなら、ベラルーシは大統領制の共和国でなければならないと絶対に確信している。全ベラルーシ国民会議が導入されているのは、参加者の誰かが、あるいは既存の大統領が直接この地位に突進するのではなく、抑制及び均衡を与えるためである。重要なのは政府機関のシステムの不均衡を許可しないことである」と述べた。

(10/21 大統領府)

【外交】

●米によるベラルーシへの圧力強化

米国で対ベラルーシの圧力を強化することが決定。米上院外交委員会は、上院議員が「ベラルーシの新たな大統領選と議会選挙を実施するよう求め」、「ルカシェンコ大統領が合法的に選ばれた大統領であることを認めない」とする決議を採択した。

(10/20 Zerkalo)

●ベラルーシ国境警備隊によるベラルーシ・リトアニア間国境侵犯の疑い

リトアニア外務省は国境警備隊員による国境侵犯に対して駐リトアニア・ベラルーシ大使館の代表者に抗議文を手交した。18日の夕方、リトアニア国境警備隊は、制服姿の3人がベラルーシ側から国境線に近づいてくるのを記録した。その内の一人は、リトアニア領内の2.5メートルまで侵入した。同事実について、公判前の調査が開始された。国家国境委員会の回答によれば、ベラルーシの国境警備隊員は国境侵犯をしておらず、これは民間人がやったことであるとのこと。

(10/21 Zerkalo)

●ドイツによる追加の対ベラルーシ制裁の可能性

21日、メルケル独首相は、ベラルーシ経由の移民の流入を同国の「ハイブリッド活動」と述べ、新しい経済制裁の発動を排除しなかった。

(10/21 Zerkalo)

●ベルギーによるベラルーシ産のカリ肥料に対するEUの制裁緩和への賛同

ベルギーは、制限により「同国企業が直面している」困難を緩和するために、ベラルーシ産のカリ肥料に対するEUによる制裁の緩和に賛同している。

(10/29 Zerkalo)

【内政】

●政府職員数の最適化

政府は2022年に職員数の最適化を継続する予定である。同計画には、「職員を合理的に活用」することも含まれ、この理由の一つは、残った職員の賃金を引き上げることである。掲げられた目標達成の基準となる

のは、2022年の就業可能年齢層の実質失業率を社会的に許容可能水準である4.2-4.4%以下に抑えることである。本年第1四半期の実質失業率は4.1%であった(20万5300人)。

(10/20 Zerkalo)

●本年及び来年の人口減少予測

来年の国家社会・経済発展予測案では、本年及び2022年のベラルーシの人口数の減少が予測されている。「移民政策は、人材、第一に全ての若者の流出の阻止、高度な資格を持つ外国人「労働者」の流入の促進、不法移民対策に関する総合的な措置の策定を目的としている」。

(10/20 Zerkalo)

●ベラヴィア航空の不法移民輸送への関与の否定

運輸省航空局は、国内経由での欧州への不法移民の輸送組織にベラヴィア航空が関与していること断固として否定。

(10/21 Zerkalo)

【治安・軍事】

●国内における露の軍事施設の配備の延長

フレニン・ベラルーシ国防相とショイグ露国防相は、ベラルーシ内にある2か所の露の軍事施設であるバラノヴィチの早期警報レーダー施設及びヴィレイカの海軍無線基地の配備に関する合意の有効期間延長文書に署名した。ショイグ露国防相は、ベラルーシ・露連合国家の新しい軍事ドクトリンが西側からの脅威に対する回答であると述べた。

(10/20 Zerkalo)

【経済】

●世界銀行による本年及び来年のGDP成長率の発表

ベラルーシのGDP成長率が更に減速した。本年1-9月のGDP成長率は前年同期比2.7%増であった。ユーラシア開発銀行の専門家達は以前、6月と5月にも同様に、季節的な変動を除けば、GDPの月次変動は0%であると説明していた。

(10/18 Zerkalo)

●中国・ベラルーシ産業特区「巨石」の入居企業

10/21、ベラルーシ・ラトビア合弁企業「SMD BY」が入居。遠距離通信・データ転送・医療・自動車産業・各種機器製造等に使用される高度な電子製品(基板)を中小ロットで生産し、ユーラシア経済同盟(EAEU)諸国に輸出予定。

(10/21「巨石」公式サイト)

●財務省は、対外債務の借り換えが困難であることを認めた。同省によれば、原因の一つは欧米諸国からの制裁の影響である。このため、財務省は(ユーラシア安定化発展基金(EFSD))の第4次融資プログラムを受けられることを期待している。

(10/22 Zerkalo)

【抗議勢力の動き】

●「ラジオ・スヴァボダ」に対する共同インタビュー

・チハノフスカヤ民主勢力代表は、ヴェロニカ・ツェプカロ氏、タチアナ・ホミチ氏(マリア・コレスニコヴァ氏の姉妹)と共同で「ラジオ・スヴァボダ」に対し、2020年夏の状況と現状に関するインタビューに応じた。

・チハノフスカヤ氏は、状況はいつでも変わり得るとした上で、ライアンエアー機強制着陸事件や「移民」問題などの体制側の失態により、民主諸国がより決然と行動するようになったこと、国内での弾圧強化を受け、抗議は下火になっているものの依然続いていることを指摘。ベラルーシの人々の間には相互に信頼があり、人々はたとえ僅かであっても確実に前進している旨強調。

(10/22 チハノフスカヤ氏公式サイト)

【その他】

●移民に関する単独ピケの実施

ベラルーシ人男性が外務省の前で「不法移民を止めろ」と書かれたプラカードを掲げて単独ピケを実施した。同男性は15日間の拘束を科された。

(10/23 Zerkaro)

(了)